

登録コード:MH408200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	身体障害評価学実習【20M以降】 Practice of physical disability assessment			
担当教員	務臺 均 佐賀里 昭・岩波 潤			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻 / 2年生 前期 火曜・1 時限 火曜・2 時限			
単位数、講義室	1 単位	保健学科診断訓練実習室	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		保健・医学領域の基本的な検査・測定の基本原理を理解し説明でき実施できるようになる。	
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		身体障害系作業療法領域の基本的な検査・測定の基本原理を理解し説明でき実施できるようになる。動作分析の意義が説明でき実践できる。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		評価の意義と評価から問題点・利点の抽出、目標設定、プログラムの立案の手順を理解し説明できる。	
授業で学べる「テーマ」	健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	身体障害系作業療法領域の基礎的運動機能・神経筋機能・生理機能・上肢機能などに関する基本的評価を実践応用できるように学習する。検査・測定技術の基本原理を理解し、その妥当性の判断にたった問題分析の能力と観察・面接を含めた身体障害領域の作業療法についての評価技法を学習する。 本授業は、1年次に学んだ「生理学」「解剖学」「運動学」「作業療法学概論」「基礎作業学」の知識が前提となります。そして、本授業の内容は、2年次後期に学ぶ「作業療法評価学実習」、3年次前期に学ぶ「作業療法治療学実習」および4年次の「臨床実習」における重要な基礎知識・技術となります。 本授業は、担当教員の医療機関における作業療法士としての実務経験を活かして講義・実習を行います。			
授業計画	第1回（4月14日）評価の意義と手順、バイタルサイン・リスク管理（務台） 第2回（4月21日）感覚・知覚検査、脳神経検査（佐賀里） 第3回（4月28日）形態測定、関節可動域測定法（務台） 第4回（5月12日）関節可動域測定法（務台） 第5回（5月19日）関節可動域測定法（務台） 第6回（5月26日）実技試験 第7回（6月 2日）徒手筋力検査法（務台） 第8回（6月 9日）徒手筋力検査法（務台） 第9回（6月16日）徒手筋力検査法（務台） 第10回（6月23日）筋緊張、反射検査（岩波） 第11回（6月30日）片麻痺機能検査（岩波） 第12回（7月 7日）協調性検査、バランス（務台） 第13回（7月14日）上肢機能検査（務台） 第14回（7月21日）実技試験 第15回（7月28日）動作分析、模擬評価（務台）、授業アンケートの実施 第16回（8月 4日）期末試験（筆記）			
授業の進め方	講義・実習 ・2人1組で評価手技を実習する。 ・服装は動き易い服装。トレーナー、Tシャツ、ジャージ、短パンなど。動き易い服装でないとペアとなった相手が測定しにくくなり迷惑がかかります。 実技試験 ・5月26日にバイタルサイン、関節可動域測定、感覚・知覚検査、脳神経検査について、7月21日に徒手筋力検査、片麻痺機能検査、協調性検査、バランス検査の実技試験を実施します。			
テキスト、教材、参考書	教科書：標準作業療法学-作業療法評価学第4版（医学書院） 新・徒手筋力検査法（協同医書） 参考書：ベッドサイドの神経の診かた（南山堂） 授業の中で必要に応じて資料配布する。 角度計とメジャーは共同購入で教員が注文するので料金を後日徴収する（2,000円程度） .			
成績評価の方法	実技試験（2回：5月26日、7月21日）と筆記試験（1回：8月4日）を合計して評価する。総合成績の割合は実技試験：80％、期末試験：20％とする。 基礎的評価技法の原理と目的を理解し、バイタルサイン、関節可動域測定、片麻痺機能検査、感覚・知覚検査徒手筋力検査、協調性検査、バランス検査が実践できるか実技試験に			

成績評価の方法	て確認する． 達成目標について，授業で扱った評価手技について，基礎的評価技法の原理と目的や各種評価手法および動作分析を理解しているか期末試験で確認する．また，評価結果からの問題分析と治療プログラム策定の活用について授業の中で確認する．
成績評価の基準	本科目は，実習を通した学習経験を重視しているため，原則として全ての授業への参加を成績評価の前提条件とする． 実技試験と筆記試験による判定基準は以下の通りとします． 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可 ただし，2回実施する実技試験はそれぞれ80%以上の得点を取る必要がある（2年後期以降の臨床実習で，患者様の前で実習を行うには8割以上の知識と技術が必要）．期末試験（筆記）は60%以上の得点を取る必要がある． 【実技試験】 それぞれの試験ごとに知識の正確さ，手技の正確さ，接遇面，安全性への配慮を基準に判定します． 【筆記試験】 得点を割合に換算します． これらの採点の基準は，達成目標に関連した設問に対する選択肢解答の正誤だけでなく，口頭・記述式解答における用語の適切さ，説明内容の範囲の広さや詳細さ，説明内容の論理的な妥当性などを指標とし，授業で説明した範囲における最低限の実技・解答内容であれば「水準にある」，やや詳細な実技・解答内容であれば「やや上にある」，十分に詳細な実技・解答内容であれば「かなり上にある」，授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な実技・解答内容であれば「卓越している」と判定します．
事前事後学習の内容	【事前学習について】 授業終了時に，次回までに学習しておく資料や教科書の範囲を説明します．第1回目については，「標準作業療法学-作業療法評価学」のP 2-32，50-61に目を通しておいください． 【事後学習について】 毎回，授業のはじめに，前回の授業の要点について質問を行うので，授業で配布した資料や授業で実施した教科書の範囲を十分に復習する．授業の中でも内容は指示します． 本授業の単位修得には授業は45時間（3時間×15回）+ 自己学習15時間（1週間につき最低1時間）= 60時間以上の学習が必要です．
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	質問・相談は教員が南校舎2階務台研究室に在室の場合は，随時受け付ける．またEメールでの質問やアポイントの連絡も随時受け付ける． Eメールアドレス（務台）：hitmutai@shinshu-u.ac.jp